

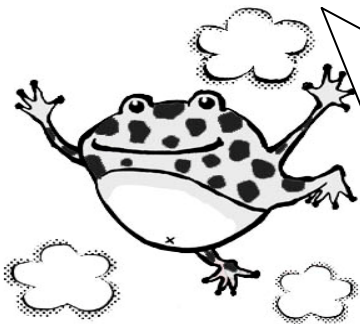
かえる便り 28年度9号

平成28年6月6日

初夏の候、皆様にはますますご健勝にてお過ごしのことと存じます。

人生に“次はない”あるのは“今だけ”という心構えで行動する人は失敗を成功に結び付けられると思っています。教育や部活動は過程を大切にしながら結果を出すことが重要です。過程がいくら良くても結果が伴わなければ、真に評価されることはありません。教えてもらう過程で理解でき、結果が伴うから生徒は自信を持つことができ更に意欲的になると思います。

教育現場は生産性（利益を生む出すこと）のない職場です。授業料と税金で生徒の可能性を引き出し国や地域社会に有為な人材（人財）を輩出することで評価されるのです。心に響く教育を施し、知識を探究する心を育てることが出来ないなら職を辞すべきだと考えています。



教育で大切なことは心構えを育てることだと思う。“話を聞く時には聞く”、“責任を持って事に当たる”、“目の前のすべきことに集中できる”などの心の構えが出来るようにすることが教師には求められていると思う。このことに重きを置かないと“目の前の事に集中しないで他に心を奪われる”子供にしてしまう。心構えを持った生徒にする努力をしたが、出来ない未熟な自分でした…

智翠に来て勝てる可能性があるという部員達に行ったことは初めてです。但し、自分が出来ることを今まで以上にやり抜き、与えられた責務を最後まで果たすことが絶対条件だと言いつけ日々練習してきました。

残念ながら、部員と私との間に心の結びつきはないと感じました。“仲間のために自分が何をすることが出来るか”、“与えられた責務を全うすること”を言い含め、全員で試合に臨むよう指示しました。得点して嬉しいことは分かりますが、先ず報告すべき相手は応援団です。但し、試合は終了していないので直ぐに責任を果たす場に戻る事が重要です。彼等の行動はどうでしたでしょうか…？
2年生がセンターサークルで試合開始を遅らせる努力をしていたことをどのように思うのでしょうか？心が響き合うことのない人間関係は続きませんね！